

しんりんかんだより

年主題

「ともにつむぎだす」～希望の中で～

月主題 3F/2F またあした／わかちあう

‘24 第11号 (vol.83)

2024年2月1日発行



「いのち」

プランターの水仙の芽が顔を出しました。プチテラスの梅の木もほんの少しですがつぼみが色づき始めています。北風の中にも日差しは、少しずつ春に向かっていきます。ひかり組の子どもたちは、間もなく巣立ちの時を迎えます。子どもたちにとって親隣館保育園での生活が、芽吹く力を蓄える土のように暖かい場所であり、根を張る力をつけることのできる場所でありたいと思います。

先日、4年ぶりに卒園生にも卒を広げて、鍋パーティを開催しました。久しぶりの卒園生と会えるのを楽しみにしていた年長のI君は「Mちゃん～会いたかったよ～」と抱きついて再会を喜び合っていました。鍋パーティを準備からお手伝いしてくださったお父さん方も「バザーと一緒に焼きそば焼きましたよね～」と思い出話に花が咲き、また来年度と再来年度に下のお子さんの入園すれば始まるであろう親隣館での生活を楽しみにされているようでした。そして在園、卒園の保護者の方々が鍋を味わいながら、「親隣館は、移転してもこの地域を離れないでほしい・・・」「早く学童保育をやってほしい～期待しています。」と励ましの声をいただきました。

親隣館がこの地に種を蒔かれてから60年余り、根を張ることができたのは、まさに、この人と人との繋がり、保護者の方々が子どもと共に繋がって親隣館を育ててくださったのだと実感しました。

クリスマス会の帰りに「中学生になったら制服見せに来るからね。」と言っていた6年生たちも小学校からの巣立ちの時を前にして、古巣に帰ってきた小鳥のようでした。20歳になった我が子も保育園時代の仲間と成人式で再開し、集合写真を送ってきました。大人になっていく過程の中で保育園時代の記憶はだんだん薄れていくでしょう。でも小さいころに友だちと遊んだ楽しい思い、愛された感覚は、心の栄養となって残っているのではないかと思います。

今年は、元旦に大地震が起きて、たくさんの命が失われました。帰省していた奥さんと子どもたちを亡くした若いお父さんが、「私だけが生き残ったことには、なにがしかの意味があると思うので、これからも頑張って生きていこうと思います。」と話されていました。今を生きていることは、当たり前ではなく、生かされているのだということ、巣立っていく子どもたちにも何よりも「いのち」を大切にする人になってほしいと願っています。自分の命を大切にできる人は他者の命も大切にできる人であると・・・

平和をつくりだす人たちは幸いである。(マタイ5:9)

これからも、出会いを大切に繋いでいく親隣館保育園でありたいと思っています。

(主任 鹿糠正美)